

## (6) 環境・衛生施設

### 1) 環境・衛生施設

#### ① 概 要

本市には、環境・衛生施設として環境衛生センターと斎場があります。

環境衛生センターは、多様化するごみに対応し、溶融残さの再資源化を図り、有効利用ができるごみ処理施設（全国で初めて高温溶融処理方式を採用）として建設され、ダイオキシン類をはじめとする公害防止対策にその効果を発揮しています。また、ペット等の小動物の火葬（有料）も行っています。

昭和 55 年建築の第一工場棟（延床面積：約 1 万 1 千㎡）と平成 8 年建築の第二工場棟（同：約 1 万 6 千㎡）をはじめとして、大小さまざまな 31 棟で構成されています。

斎場は、4 つの告別式場と火葬場があり、昭和 28 年から、簡素・厳粛を旨とする市営葬儀を行っています。

いずれも直営の施設であり、指定管理者制度等は導入していません。

表 3-2-14 環境・衛生施設の概要

| No.       | 施設名      | 所在地          | 複合<br>区分 | 運<br>営<br>形<br>態 | 延床<br>面積<br>(㎡) | 主要な建物の情報（H29年末現在） |          |           |     |
|-----------|----------|--------------|----------|------------------|-----------------|-------------------|----------|-----------|-----|
|           |          |              |          |                  |                 | 建築年               | 経過<br>年数 | 構造・<br>階数 | 耐震性 |
| ごみ・し尿処理施設 |          |              |          |                  |                 |                   |          |           |     |
| 1         | 環境衛生センター | 東野々宮町14番 1 号 | 単独       | 直営               | 42,585          | S55               | 37       | SRC・5     | ○   |
| 斎場        |          |              |          |                  |                 |                   |          |           |     |
| 1         | 斎場       | 大住町18番16号    | 単独       | 直営               | 3,439           | S60               | 32       | RC・2      | ○   |



環境衛生センター



斎場

## ② 施設位置図



図 3-2-93 対象施設位置図（環境・衛生施設）

### ③ 利用の状況

ごみ総量の推移をみると、平成 12 年度の約 13 万 8 千トン进行ピークに減少傾向にあり、平成 28 年度には約 9 万 6 千トンとなっています。このうち、市が収集した普通・粗大ごみは約 4 万 6 千トンで、前年度から約 1,400 トン減少しています。

し尿処理総量の推移をみると、平成 9 年度の約 2 万 5 千トンから減少傾向にあり、平成 28 年度では約 5 千トンとなっています。

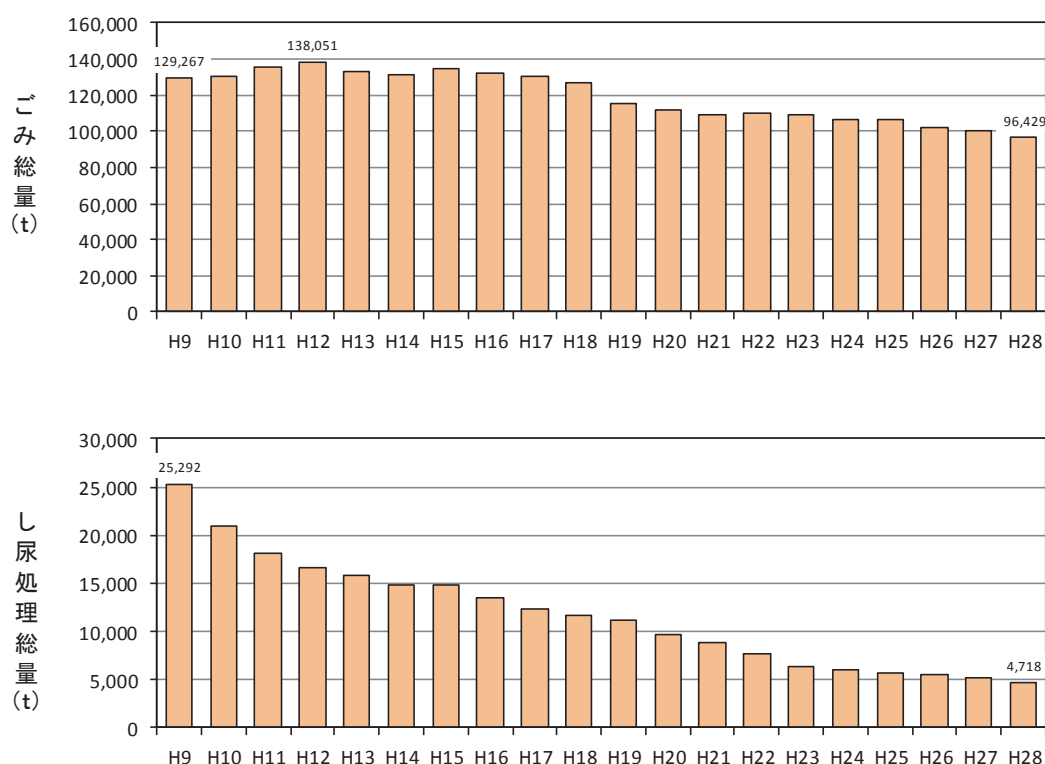


図 3-2-94 ごみ総量等の推移

斎場の利用件数の推移をみると、告別式場の利用件数は平成 15 年以降微増傾向にあり、年間 700 件ほどで推移しています。また、火葬場の利用件数については、増加傾向が続いており、近年は 2,000 件を超えている状況です。

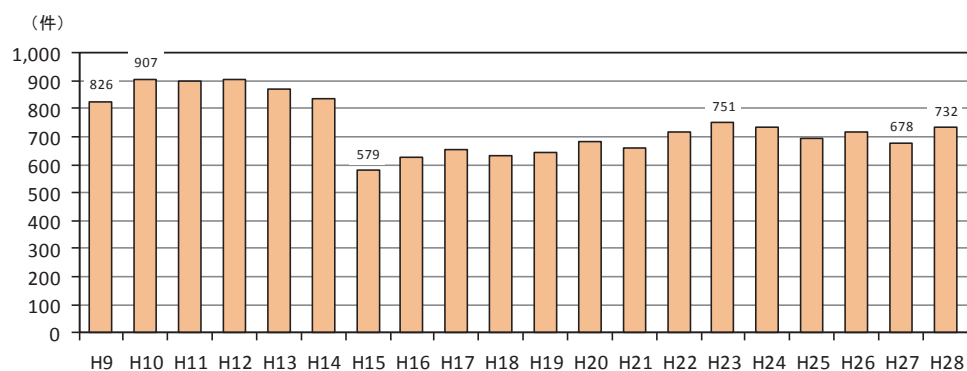


図 3-2-95 斎場（告別式場）の利用件数の推移

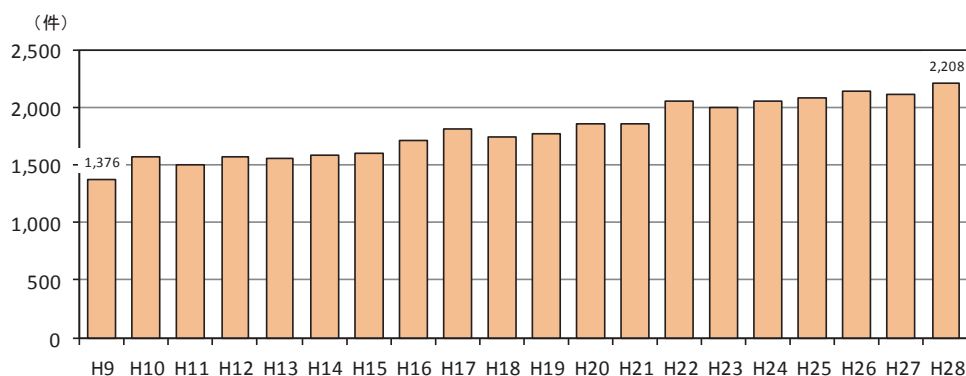


図 3-2-96 斎場（火葬場）の利用件数の推移

#### ④ 施設に関する総コストの状況

平成28年度の施設に関する総コストをみると、環境衛生センターは約17億円となっており、そのうち運営費が約6割を占めています。

また、歳入をみると、環境衛生センターで約4億5千万円、斎場で約1億4千万円となっています。

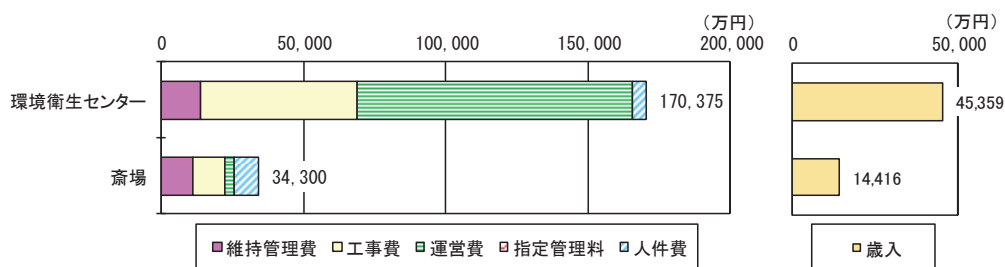


図 3-2-97 施設に関する費用と内訳（H28 年度）

#### ⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積1㎡あたりでみると、斎場で約2万5千円、環境衛生センターで約1万6千円となっています。

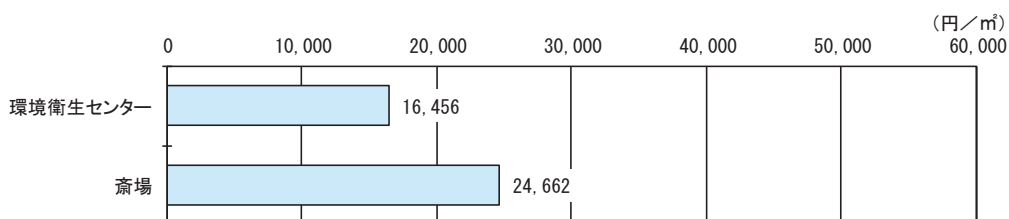


図 3-2-98 延床面積1㎡あたりの市負担コスト（H28 年度）

## ⑥ 今後の課題等

- ・環境衛生センターは市民生活に欠かせない施設ですが、ごみ総量とし尿処理総量のいずれも減少傾向にあり、また、今後は総人口が減少に転じると見込まれることから、現在と同等の性能や規模に対するニーズは低くなると考えられます。
- ・ごみ処理施設の熔融炉等の大型設備機器の耐用年数は建物の躯体に比べて短く、現在稼働中の炉が近く更新時期を迎えることから、改修により、さらなる長寿命化・延命化を図ることとしています。炉の改修・更新には多額の費用を要することから、今後も更新時期を見据えながら、長期的な視点で計画的な保全を行う必要があります。
- ・環境衛生センターの更新時期の検討にあわせ、施設規模の適正化や周辺市との広域連携、管理運営における官民連携手法の活用などを研究していく必要があります。
- ・斎場の火葬場の利用件数は今後も増加することが見込まれるため、炉の老朽化の程度等を考慮し、適切な時期に、規模の適正化を含めた更新等を検討する必要があります。